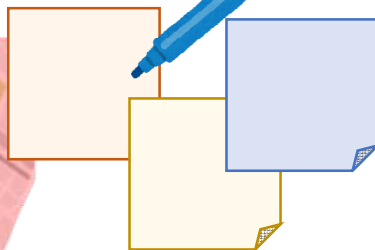


D I G ツール

Disaster Imagination Game



計画に記載の
ある装備品は？



訓練：避難に必要な装備品等の確認

様式①

施設の課題	対応行動	対応行動の課題	予防策
ツール②-1 避難を想定した 装備品の確認	情報収集用 にタブレット を使用する	タブレットの 充電が 足りない	バッテリー を追加 購入する
			
			

DIG（災害図上訓練）手順書

DIGツールとは	1
DIGツールの使用イメージ	2
【別紙】準備品の例	3

DIG（災害図上訓練）ツール

DIGツール	4
------------------	---

ツール① 課題をもとにした訓練ツール

ツール② 事例をもとにした訓練ツール

- ツール②-1 【設備や装備品、備蓄品、持ち出し品等の確認訓練】
避難に必要な装備品等の確認
- ツール②-2 【避難準備訓練／情報収集・伝達訓練】
施設管理者不在時の代行者の行動
- ツール②-3 【引き渡し訓練／立ち退き訓練（水平訓練）】
点呼時に利用者が移動した場合の対応
- ツール②-4 【引き渡し訓練／避難経路等の確認訓練】
自宅－施設間のルートの確認
- ツール②-5 【屋内安全確保（垂直訓練）】
施設の浸水深の確認
- ツール②-6 【避難経路等の確認訓練】
避難ルートの危険性の確認

【様式①】記入様式

【様式②】浸水深ポスター I

【参考資料】（進行役用）訓練ツール毎の記載例

* DIGツールとは *

■DIGとは、Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字をとって名付けられた災害図上訓練を意味します。

■施設の災害リスクを「見える化」し、起こり得る課題や危険性について、みんなで考える訓練です。



● DIGツールの特徴

DIGツールの特徴は、

- ✓ 災害時に想定される具体的な事例をもとにした進行手順に従うことで、初めてDIGを用いて訓練する方も、スムーズに進めることができます。
- ✓ 具体的な事例は、主な5つの訓練それぞれで作成しています。
- ✓ 訓練後、使用した図面などは、施設職員や施設利用者がいる場所にそのまま掲示することによって、情報の共有を行うことができます。

表. 5つの訓練の具体的な事例

訓練	具体的な事例
①避難準備訓練／ 設備や装備品、備蓄品、持ち出し品等の確認訓練	・ 施設管理者不在時の代行者の行動 ・ 避難に必要な装備品等の確認
②情報収集・伝達訓練	・ 施設管理者不在時の代行者の行動
③引き渡し訓練	・ 点呼時に利用者が移動した場合の対応 ・ 自宅・施設間のルートの確認
④屋内安全確保（垂直訓練）	・ 施設の浸水深の確認
⑤立ち退き訓練（水平訓練）／ 避難経路等の確認訓練	・ 点呼時に利用者が移動した場合の対応 ・ 避難ルートの危険性の確認 ・ 自宅・施設間のルートの確認

* DIGツールの使用イメージ *

Step 1 実施する訓練を考える

■施設の避難行動に対して、課題があるかを確認しましょう。

『課題がある』場合、**課題をもとに訓練を実施**しましょう(ツール①活用)。

『課題がない』場合、**事例から選択して訓練を実施**しましょう(ツール②活用)。

■次に、「**訓練日時**」や「**参加者**」、「**役割**」等を決めましょう。

役割には「**進行**」と「**記録**」があり、進行役は訓練の司会進行、記録は写真撮影や時間の記録等を行います。

◇日時: _____年____月____日 ◇場所: _____

◇参加者:

進行: _____ 記録: _____

各担当者: _____



※ 施設に応じて、『利用者』を「園児」「児童」「患者」等に、
『利用者家族』を「保護者」「患者家族に」等に置き換えてください。

Step 2 訓練の準備

■選択したDIGに応じた**訓練準備**を行いましょう。

(準備品の例: 図面・模造紙・フセン・ペン等)

※使用するペンは、見やすく【太字ペン】等を活用



ハザードマップ



Step 3 訓練の実施・訓練の振り返り

■選択したDIGの**手順に従って**、様式①記入様式に記載して、
訓練を実施しましょう。

※全員の発言を促し、意見はふせんに書き込みましょう。

■訓練終了後、**良かった点や改善点等**、参加者で振り返りを行いましょう。



Step 4 訓練結果の情報共有と整理

■訓練結果は、**見やすい箇所に掲示し、情報共有**しましょう。

■訓練結果に応じて、**避難確保計画は見直し**をしましょう。



品目	数量	備考
避難確保計画	参加者数分	
ハザードマップ (施設や避難先の位置する自治体のハザードマップ)	机分	大判印刷があれば、印刷 入手先の例: 参考資料②
施設の立面図	机分	大判印刷が可能であれば、印刷
過去の災害に関する資料や写真	適量	入手先の例: 参考資料②
施設や施設周辺、 避難ルート、避難先の写真	適量	参考になる資料あれば、準備
筆記用具 (マジックペン等の太字のペン)	参加者数分	
ふせん	参加者数分	何色か用意
ホワイトボード・マグネット	1	可能であれば準備
様式①	机分	大判印刷が可能であれば、印刷

ふせんの活用イメージ

施設の課題	対応行動	対応行動の課題	予防策
ツール②-1 避難を想定した 装備品の確認	情報収集用 にタブレット を使用する	タブレットの 充電が 足りない	バッテリー を追加 購入する

施設の課題に基づいて対応行動などを記入

項目や重要度によってふせんの色を変更

周知しやすいように太めのペンを活用

*** DIGツール ***

— 施設の課題への対応 —

タイトルに課題を記載

ツール①

手順① オリエンテーション(DIGの説明、目的の確認)

- ・施設の課題は？
- ・災害時に何が起きるのか？
- ・被害を受ける前にできる予防策はなにか？

⇒これらについて参加者で話し合いながら、情報を共有することがDIGの目的であることを確認しましょう。



手順② 課題の確認

課題について、ハザードマップや避難確保計画などを用いて、訓練に必要な情報を確認しましょう。



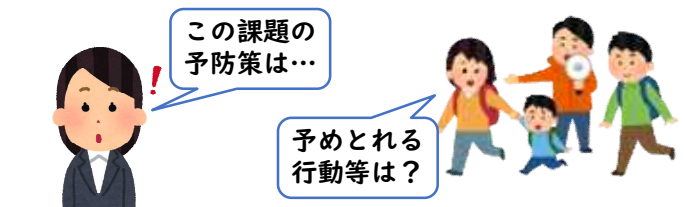
手順③ 何が起こるのか、起きた場合の危険性の話し合い

何が起こるのか、避難行動をとる際に起こり得る課題や危険性を話し合しましょう。



手順④ 予防策の話し合い

話し合いで見えた課題や危険性に対する予防策を話し合しましょう。



手順⑤ 内容の情報共有

施設職員や関係者が、避難行動にかかわる内容が分かる様に情報を共有しましょう。



■DIG：設備や装備品、備蓄品、持ち出し品等の確認訓練

ツール②-1

—避難に必要な装備品等の確認—

手順① オリエンテーション(DIGの説明、目的の確認)

・避難確保計画にある装備品等で足りるか？

・使用する際の課題と予防策は何か？

⇒これらについて参加者で話し合いながら、情報を共有することがDIGの目的であることを確認しましょう。

D I Gとは？

何のため？

何をする？

何ができる？



手順② 現在の装備品等の確認

避難確保計画を確認し、現在の装備品等について確認しましょう。



計画に記載のある装備品は？

手順③ 避難行動の想定

避難を実施することを想定し、記載された装備品をどの段階で使用するかを話し合しましょう。

避難確保資器材一覧

	備蓄品
	情報収集・伝達
テレビ ①②	ラジオ ①②④
タブレット ①～④	ファックス ①
懐中電灯 ①～④	電池 ①～④
携帯電話用バッテリー	①～④

例：防災体制のどの段階で資機材を使用するか など

①注意態勢、②警戒態勢、③非常態勢、④その他(負傷時)、...

手順④ 課題と予防策の話し合い

・避難行動を考えた時に、足りないものを確認し、どのような備品を準備して予防をしていくかを話し合しましょう。



避難時の課題は？

課題を解決する
装備品は？

手順⑤ 結果の情報共有

施設職員が装備品について把握できるように、保管場所も記載したリストを職員間で共有しましょう。

避難確保計画



避難時に使用する
装備品等について
情報周知

■DIG：避難準備訓練／情報収集・伝達訓練

ツール②-2

—施設管理者不在時の代行者の行動—

手順① オリエンテーション(DIGの説明、目的の確認)

- ・施設管理者が不在時に、代行者は誰か？
- ・代行者は、何を実施するのか？
- ・実施する時の課題と予防策は何か？

⇒これらについて参加者で話し合いながら、情報を共有することがDIGの目的であることを確認しましょう。

DIGとは？

何のため？

何をする？

何ができる？



手順② 代行者の確認

避難確保計画を確認し、施設管理者が不在時に、次の代行者は誰かを記入しましょう。



次の代行者は、
〇〇さんです。

管理者

代行者



手順③ 実施内容の確認

今後、浸水が想定される状況で、何を準備し、実施していくのかを話し合しましょう。

何をする？

準備は何か？

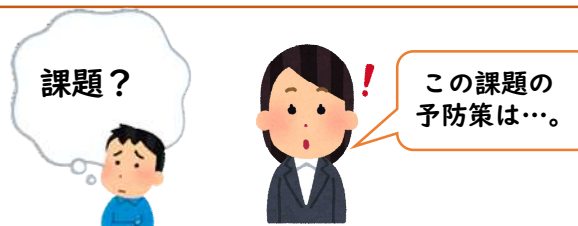


手順④ 課題と予防策の話し合い

- ・準備・実施を考えた時に、課題となることを話し合しましょう。
- ・課題についての予防策を話し合しましょう。

課題？

この課題の
予防策は…。



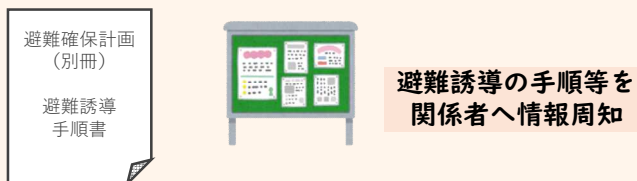
手順⑤ 結果の情報共有

施設職員が、施設管理者が不在時に対応することが分かる様に情報を共有しましょう。

避難確保計画
(別冊)
避難誘導
手順書



避難誘導の手順等を
関係者へ情報周知



■DIG：引き渡し訓練、立ち退き訓練（水平訓練）

ツール②-3

— 点呼時に利用者が移動した場合の対応 —

手順① オリエンテーション(DIGの説明、目的の確認)

- ・利用者を避難誘導する際の支障は？
⇒一例として、利用者が点呼前後でいなくなった場合を想定した訓練を実施
- ・円滑な防災行動のための予防策はなにか？

⇒これらについて参加者で話し合いながら、情報を共有することがDIGの目的であることを確認しましょう。

DIGとは？

何のため？

何をする？

何ができる？



手順② 洪水リスクや避難誘導手順の確認

施設で生じうる洪水リスクや洪水時の利用者避難の誘導手順を確認しましょう。

施設の浸水深、避難ルートは？



利用者を避難する手順は？

手順③ 利用者がどこにいるのかの話し合い

利用者がどこに移動したと考えられるのか話し合しましょう。

施設外のどこかに？

施設内のどこかにいる？



すでに避難所へ？



手順④ 予防策の話し合い

利用者避難にあたり、円滑な避難誘導のための予防策を話し合しましょう。

チェック方法の変更は？

点呼後の行動は？



手順⑤ 避難誘導手順の周知

施設職員・連携機関スタッフ・ボランティアが、対応が分かる様に情報を共有しましょう。

避難確保計画
(別冊)
避難誘導
手順書



避難誘導の手順等を
関係者へ情報周知

■DIG：引き渡し訓練、避難経路等の確認訓練

ツール②-4

—自宅—施設間のルートの確認—

手順① オリエンテーション(DIGの説明、目的の確認)

- ・職員が在宅時に参集の連絡が入ったら？
- ・自宅から施設までのルートは安全？
- ・引き渡し連絡を受けた利用者家族は安全に迎えに来られる？

⇒これらについて参加者で話し合いながら、情報を共有することがDIGの目的であることを確認しましょう。

DIGとは？

何のため？

何をする？

何ができる？



手順② 浸水想定区域とルートの確認

ハザードマップを確認し、職員参集時及び利用者家族引き渡し前後に利用するルートの確認を行いましょう。

避難ルートは？



避難ルート上の浸水深は？

ハザードマップ

手順③ 職員宅や利用者宅までのルート上の災害リスクの話し合い

自宅から施設までのルート上に災害リスクがある職員や利用者家族の数を確認し、想定される災害を話し合いをしましょう。

車で移動できない場合は？



手順④ 予防策の話し合い

対応行動等、安全な避難行動のための予防策を話し合いましょう。

職員や家族との連絡方法は？

迎えに来られる人は？



手順⑤ 参集及び迎えの想定の情報共有

職員間や利用者家族で話し合った情報を共有しましょう。



■DIG：屋内安全確保(垂直訓練)

ツール②-5

— 施設の浸水深の確認 —

手順① オリエンテーション(DIGの説明、目的の確認)

- ・施設周辺の災害リスクは？
- ・災害が起きた場合には、施設で何が起きるのか？
- ・被害を受ける前にできる予防策はなにか？

⇒これらについて参加者で話し合いながら、情報を共有することがDIGの目的であることを確認しましょう。

DIGとは？

何のため？

何をする？

何ができる？



手順② 浸水深の確認

ハザードマップを見て、施設がどのくらいの高さまで浸水するのか確認し、立面図に浸水深を記入しましょう。



ハザードマップを確認

施設の浸水深は？



ここまで浸水する

・浸水深

立面図に浸水深を記入

手順③ 危険性の話し合い

施設が浸水した場合に想定される危険性について話し合いましょう。



施設が浸水したら何が危険だろう？

手順④ 予防策の話し合い

浸水に対する必要な予防策（情報収集や避難準備などの方法）を話し合いましょう。

土嚢は有効？

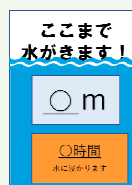


立退き避難（水平避難）は可能？



手順⑤ 浸水深の情報共有

施設職員・利用者が、浸水した場合の浸水深が分かる様に、施設内の同じ高さの壁にポスターを貼りましょう。



想定される浸水深と同じ高さにポスターを掲示

■DIG：避難経路等の確認訓練

ツール②-6

— 避難ルートの危険性の確認 —

手順① オリエンテーション(DIGの説明、目的の確認)

- ・施設と避難先までの避難ルートの災害リスクは？
- ・避難ルートの危険箇所は？
- ・被害を受ける前にできる予防策はなにか？

⇒これらについて参加者で話し合いながら、情報を共有することがDIGの目的であることを確認しましょう。

DIGとは？

何のため？

何をする？

何ができる？



手順② 避難ルートの確認

避難先までのルート上で想定されている災害をハザードマップを見て、確認しましょう。

避難ルートは？



避難ルート上の浸水深は？

ハザードマップ

手順③ 危険とを感じる箇所の話し合い

ルート上で、危険とを感じる箇所を話し合しましょう。

想定事例



土砂災害



水路の影響
による浸水



堤防決壊



橋の老朽化

手順④ 予防策の話し合い

避難ルートの災害リスクへの予防策を話し合しましょう。

別ルートや避難方法の変更は？

早い段階での避難の可能性は？



手順⑤ 避難ルートの情報共有

施設職員が、ルート上の災害リスクが分かる様に、情報を共有しましょう。



情報を書き込んだハザードマップを施設内に掲示

訓練：

施設の課題	対応行動	対応行動の課題	予防策

ここまで
水がきます！

_____m

_____時間
水に浸かります

参考資料

■対応行動
実際の行動順に並べて
貼ると理解しやすい

事前に兼務
できる人員
を育成する

点呼職員を
増員する

参考資料

施設の課題	対応行動	対応行動の課題	予防策
ツール②-4 参集時のルートに浸水が想定される	迂回路で参集する 安全な迂回路を探す	避難業務にあたる職員が減る 安全な迂回路を探すのに時間がかかる	地域への協力を事前に求める 事前に迂回路を把握しておく

施設の課題	対応行動	対応行動の課題	予防策
ツール②-5 1階天井まで 水に浸かる	1階から 2階へ避難 する 準備品を 移動する	寝たきりの人 の避難には エレベーター が必要となる 電気機器が 1階に多く ある	エレベーター での避難者 の優先順位 を決めておく 平時から 上層階に 置いておく

施設の課題	対応行動	対応行動の課題	予防策
ツール②-6 避難ルートに 水量が多い 水路がある	徒歩ではなく 車で 避難する 避難路を 見直す	車が浸水し 動けなく なる 遠回りになる	水路のない 安全な ルートを選 び 早めに 避難する